第3章

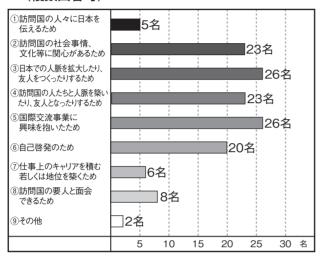
参加青年名簿 事業評価アンケート 研修日程 実績

事業評価アンケート 平成30年度 国際青年育成交流事業(日本青年海外派遣)

アンケート対象者: 団長、副団長を除く参加青年35名

1. 全体評価

(1)あなたは、なぜこの事業に参加したのですか。(複数回答可)



(2) 事業全体をどのように総合評価しますか。



<オーストリア>

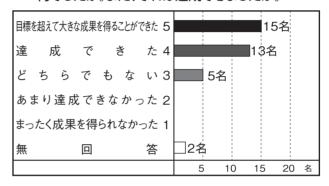
- ・様々な訪問先で自分の興味と違う新たな知識を得られたことと、国際青年交流会議で異なる国の青年の 意見を聞き、交換できたことが非常に有意義だった。
- ・「国際的な視点を身につけた人材になる」という目標 を達成できただけでなく、「外国青年と友達になる」 「英語運用能力を伸ばす」という予期せぬ成果が挙げ られた。

<ラオス>

- ・今まで持っていた固定概念をなくすことができ、大学 や個人レベルではできない体験ができた。何より一生 涯付き合いのできる仲間と出会えたことが良かった。
- ・個人旅行では得ることのできない経験をすることが できた。かけがえのない宝になった。

<ラトビア>

- ・普段、関わることのできない人、場所、モノに出会えて、 貴重な経験をした。
- ・とてもしっかりとプログラムが組まれていて、特に オーガナイズがしっかりしていた。
- (3) この事業に参加するにあたって、あなたの目標は何でしたか。また、それは達成できましたか。



<オーストリア>

- ・日本青年と一生涯の友情を築く。海外青年と友情を 築く。自らの限界を超えて一歩でも成長する。
- ・政府や専門機関等がどのような取組みをしているか 知ること。派遣国との良い関係性の維持に貢献する こと。

<ラオス>

- ・リーダーとなるスキルや夢を具体的に持つこと。判断 力の向上。
- ・英語力の向上。ラオス人とよい関係になる。

<ラトビア>

- ・自分の意見を持ち、それを発信する。
- ・ラトビア青年と交流し、ラトビアの見識を深める他、 多くの人のバックグラウンドを自身のキャリア形成の 参考にすること。

(4)以下の①~⑫までに掲げる項目に関し、この事業全体を通じて得られた自らの成長等への効果について、以下の5~1のうち、該当すると思われる数字を ○で囲んでください。

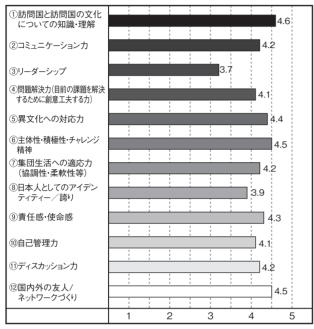
5:大きな効果があった

4:効果があった

3: どちらでもない

2:あまり効果がなかった

1:効果がなかった



※数値は参加青年35名の平均

(5)上記(4)に掲げたもの以外で、事業参加によって具体的に得られたものがあれば記入してください。

<オーストリア>

- ・未来や社会への希望。自分を信じる心。
- ・海外青年や日本青年との深い友情。リーダーとしての あるべき姿。外国人と英語でディスカッションをする力。

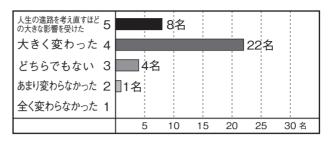
<ラオス>

- ・物事が上手くいかなった時の「そういうこともある」 精神。
- ・全体を見渡す視野の広さ。

<ラトビア>

- ・あきらめない力。できないことを恥じない力。議論を 前に進める力。
- ・伝統芸能から生活習慣まで、日本についての知識。

(6) あなたはこの事業への参加を通じて、人生、社会などについての考え方が変わったと思いますか。



<オーストリア>

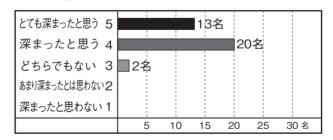
- ・海外で働くことも意識するようになった。「これだけ はゆずれない」と思えるものもできた。
- ・教育制度の違いや若者のボランティア活動を学び、 社会に貢献しようと強く感じた。

<ラオス>

- ・派遣国で出会った人だけでなく、団長や他の日本人の バックグラウンドも自分の考えを大きく変えてくれた。
- ・自分は恵まれた環境だったというのを再認識した。改めて世界の多様性を感じた。海外に通じる仕事をしたいと思った。

<ラトビア>

- ・社会や世界を身近に感じられた。社会人になる、働く ということに希望とやる気を得られるようになった。
- ・ボランティアや社会貢献、青年活動に参加しようという思いが強まった。今までは心理的障壁と自分の時間を割くことへの抵抗感があったが、自分の能力のブラッシュアップ、ネットワーク形成につながるということに気付けた。
- (7) この事業を通じて、あなたと訪問国の人々との相互理解が深まったと思いますか。



<オーストリア>

- ・小学校を訪問して日本文化のワークショップを行ったことで、子供たちが日本文化に親しみ将来につながる交流ができた。
- ・市内視察中やディスカッションのみならず、連絡を取 り合って会ってくれる青年と多くの話ができ、お互い

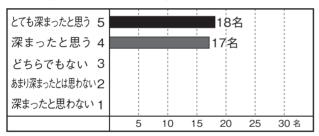
驚くことがたくさんあった。

<ラオス>

- ・2日間ほどの交流では絆は生まれないのではと感じていたが、意見交換を通じ、人生における最終目的な ど深い話をすることができた。
- ・深まったというより深めていくための基礎的な理解ができたと思う。

<ラトビア>

- ・特に文化的な側面に関して意見交換をし、双方の特性を知ることができた。一緒に楽しむプログラムや真剣に話し合うプログラムなどを通じて、ラトビアの青年とより深い関係を築けたと思う。それにより、お互いの国への興味が深まった。
- ・ラトビアの招へい青年と話す機会や時間が多く、普 段間くような食文化や生活の違いといった質問はも ちろん、日本人・ラトビア人としての、また個々人として の考え方についても話し合うことができ、派遣団とし ても、また一対一の人間としても話し合い、お互いにつ いて理解し合おうと努めることができた。
- (8) この事業を通じて、あなたと訪問国の人々との友好が深まったと思いますか。



<オーストリア>

- ・オーストリアと日本だけでなく、一緒に世界や社会に住む 一員としてより良く、ともに生きていく仲間ができたと思う。
- ・初めてこんなに心を通わせたヨーロッパ人と出会うことができた。

<ラオス>

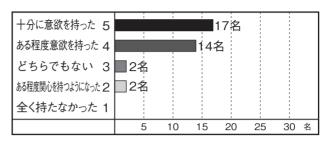
- ・招へい青年やホームステイ先の方と非常に楽しい時 を過ごし、今後も連絡を取り合う関係を築けた。
- ・互いの文化や価値観を深く知ることができ、日本に対しても関心を持ってもらえた。

<ラトビア>

・お互いに全く知らない国だった。だからこそ互いに興味を持ち、誠実さを持って交流することができた。

・一つの国を18日間周ること自体が貴重な機会かつ両 国の友好を築くのにとても良いと感じた。

(9) 事業参加を通じて、社会貢献活動を始めたい、参加したいという意欲等を持ちましたか。



<オーストリア>

- ・一人でがんばってもどうせ社会は変わらない、という あきらめが、一人じゃない、という希望に変わった。
- ・オーストリアの青年がボランティアを通じて社会貢献を 行っている姿に刺激を受け、自分は地元で観光ガイド の学生ボランティアを始めようと思った。

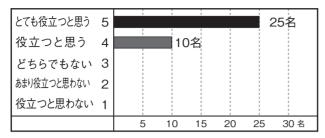
<ラオス>

- ・「今自分ができること」の漠然とした考えが、自分の 興味・関心がある内容に落とし込むことができた。
- ・ 今まで社会貢献活動を行ったことがなく、何が社会貢献なのか何のために行うのかも分からなかったが指針が見えた。始めようと思えた。

<ラトビア>

- ・ラトビア青年の社会貢献活動への熱心さに圧倒され、それの社会への影響の大きさを知り、大切なことだと気付いた。
- ・少しずつ一歩一歩始めたい。やはり欧州の人々は社会貢献活動への意識が高い。

(10) -1 この事業は、あなたの将来に役立つと思いますか。



<オーストリア>

- ・ あらゆる方向の可能性を見出してくれるきっかけ作り となった。
- ・役立つと思っていたし、事業が終わった今でも今後 役立つと感じている。

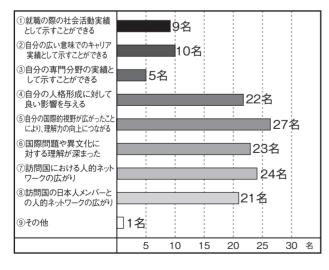
<ラオス>

- ・自分に対して何が将来のために役立つのかも分から ない若者なので、今回の事業はたくさんの選択の可 能性を示してくれた。
- ・確実に自分のキャリア、行き方を考えるものになった。国 際面で活躍したいと心から思った。

<ラトビア>

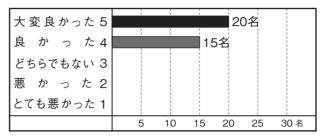
- ・役立つと思うし、役立てるよう行動していかなくては ならない。
- ・「日本青年代表」として異国でどう振る舞うのか、また、一個人としても国際社会でどうあれば良いのか 考えさせられた。

(10) -2 (10) -1において、5~4を選んだ方は、どのよう に役立つと考えるか、以下の内容から当てはま る項目を選んでください。(複数回答可)



2. 訪問国活動について

(1)訪問国活動プログラム全体をどのように評価しますか。



<オーストリア>

- ・観光では決して会うことのできない人に会い、お話を 伺い、自分から質問することができた。
- ・普段の生活では見ることのできない社会の側面を見 ることができた。

<ラオス>

- ・毎日忙しいスケジュールだったが、とても充実していた。
- ・一つの物事を、一方向からだけではなく、いろんな視点から見ることを学んだ。

<ラトビア>

- ・非常にバランスの良いプログラムだったと思う。特に ラトビア参加青年と様々な活動ができて良かった。
- ・メリハリのあるプログラムで自己管理もしやすかった。 私たちの興味・関心をかなり反映して下さり、ラトビア 側のコーディネーターも愛情を持って、いつも最善を尽 くしてくれた。

(2)訪問国活動プログラムから得たこと、発見したことは何ですか。

<オーストリア>

- ・社会からはみ出したり、ドロップアウトしたりしたらそ こで終わり、と考えられがちだが、そのような人の個性 をいかして、寄り添って、社会の中で共に暮らしていく ようサポートするやり方や取組みが多彩にあること。
- ・日本を見つめなおすきっかけ。今まで当たり前だ思って受け入れ、諦めてしまう自分がいたが、そう思わずに「変えていこう」「アクションを起こそう」という気になった。

<ラオス>

・既存概念にとらわれず、まずはコミュニケーションを

第3章 資料編

取ることの重要性。

・東南アジアの国は日本に対しての憧れをまだ抱いていること。それに対して日本人は世界に関心を向けていない人が多いこと。

<ラトビア>

- ・その場その場で、自分が感謝を持って、いかに対応 できるかが求められている。そして自分の感じ方次 第で周りの雰囲気も変わること。
- ・グローバル社会は広いけれども身近なものでもあると いうことを実感できた。
- (3)訪問国活動プログラム中、最も印象に残ったのはどのようなことですか。

<オーストリア>

- ・現地の小学校で異文化交流を通して、ノンバーバルで 子供の笑顔を引き出すことができたこと。現地青年の 慈悲深さ、丁寧さ、心のゆとり。
- ・生きることを楽しんでいる姿。些細なことだが、休日に ゆっくりと好きなことをして過ごしているオーストリア 人を見て、もっと自分も生き生きと生活したいと思った。

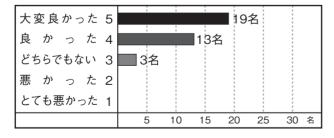
<ラオス>

- ・アジアの障害者活動を支援する会 (ADDP) の方が、 できないことよりもできることに目をむけるとおっ しゃっていたこと。
- ・ホームステイの経験。

<ラトビア>

- ・多くのラトビア人がラトビアという国、そしてその文化 に誇りを持っていたこと。
- ・ホームステイプログラム。本当に人生の宝だ。

(4)地元青年との交流をどのように評価しますか。



<オーストリア>

- ・歴史や、人々がどのように考え生活しているのかを地 元青年との交流を通して学ぶことができた。
- ・とても良かった。一対一、あるいはグループディスカッ

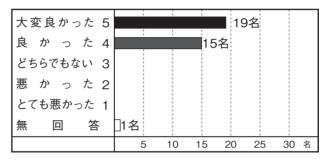
ションなどで話すからこそ深く知ることができた。

<ラオス>

- ・文化交流紹介係として日本の文化を伝えられたと思 うが、もっと深く交流をしたかった。
- ・同年代のとても優秀で、これからの世界や国を作っ ていくような地元青年と出会い、負けていられない と思った。

<ラトビア>

- ・将来を通じた友情をこの派遣で作ることができた。
- ・慣れない土地で、地元青年たちが優しく案内をしてくれ、私たちのつたない言語にも耳を傾け、話を聞いてくれたことに非常に感謝している。
- (5)施設訪問をどのように評価しますか。特に印象に残った訪問先を挙げ、理由をお答えください。



<オーストリア>

「小学校]

- ・移民の子供たちや人々と直接関わることのできるプログラムだった。
- ・言語や文化の違いという壁がある中で、子供たちが 協力し、共に日本文化紹介を楽しんでいた。
- ・異文化でも人々は分かり合えることを学んだ。

「ブルックナー大学】

- ・留学費用の安さや音楽教育の違いなど、たくさんの 発見があった。
- ・州が音楽のためにお金をかけているため、高い技術 を持った学生がたくさん集まり、向上していくという 制度が印象的であった。
- ・日頃から問題意識として抱えている「文化、芸術に何 ができるか」という疑問に答えてくれた。

「スペース・ラボ〕

- ・どんな子供でも可能性があり、その可能性を引き出 す仕事がしたいと本気で思えた。
- ・日本にはあまり見ない施設であり、このようなものが あれば、もっと子供は幸せになれると思えた。
- ・ウィーンでの若者支援について知ることができた。

<ラオス>

[特定非営利活動法人アジアの障害者活動を支援する会(ADDP)]

- ・障害のある人でもそうでない人もみんな一緒になって 頑張っている姿を見ることができた。
- ・自分の将来のヒントとなる情報を得ることができた。
- ・異国の地で障害者支援を行っている日本人の方々の お話を聞くのはとても興味深かった。

[コープビジターセンター]

- ・ベトナム戦争から立ち直ろうとするラオスを知ることができた。そのことを知り、自分に何ができるのかを 考える機会となった。
- ・戦争の悲惨さ。現代にまで続いている被害の現状を 把握することができ、日本人としての意識の低さを感 じた。

[独立行政法人国際協力機構(JICA) ラオス事務所]

- ・以前から興味があり、実際に現地で活動している話 や改善点を知ることができた。
- ・日本人から見た客観的なラオスの現状について知る ことができた。
- ・日本人として発展途上国に何が還元できるのかを知 る機会になった。

<ラトビア>

「リガエ科大学」

- ・学生を育てるために様々な環境が用意されていて、自 由な発想を大切にしている印象を受けた。
- ・ラトビアの最新の技術に触れることができた。
- ・創造性を刺激するような研究室を初めて見た。

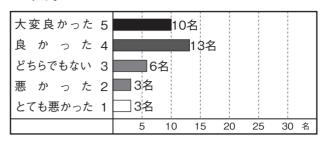
[大統領府]

- ・プログラムの中でも最も「普通ではできない」 経験 だったと思う。
- ・大統領に直接質問することができた。

[占領博物館]

- ・ラトビア人のアイデンティティーを知るよいきっかけとなった。
- ・ ラトビア人との話によく出てくる歴史について知ることができた。

(6)合宿型ディスカッションプログラムをどのように評価しますか。



<オーストリア>

- ・異なる文化で育ってきた青年とのディスカッションは刺 激的であった。
- ・日本とオーストリアではディスカッションの意味が少し 違った。もう少し、議論をディスカッションセッション でしたかったと感じた。

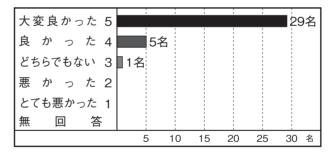
<ラオス>

・現地の大学生と真剣に話ができて非常に有意義だっ た。ただ、時間がおしてディスカッション時間が短く なったのは少し残念だった。

<ラトビア>

・間違いなく自分のディスカッション能力を上げる機会 となった。

(7) ホームステイをどのように評価しますか。



<オーストリア>

- ・現地の人が行う実際の体験ができ、仲も深められた ためすばらしい経験となった。
- ・初めてのホームステイで不安を感じていたが、ホストファミリーがとても気さくで充実した2泊3日になった。

<ラオス>

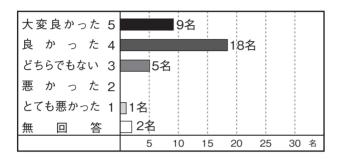
- ・現地の生活により近い体験ができた。
- ・人として尊敬できる人に出会え、ラオスでのキャリアの 積み方も学ぶことができた。

第3章 資料編

<ラトビア>

- ・実質1日半の滞在で少しもの足りなさを感じたが、日本人を受け入れるという負担を考えると、ホストファミリーには感謝の気持ちが尽きない。現地の生活の一部を実際に体験させてもらい、プログラム中に見たラトビアとはまた違うものを感じた。
- ・人生初のホームステイだった。ホームステイ先の家庭 の恩を忘れずに、逆の立場になったら様々な経験をさ せてあげたい。

3. 国際青年交流会議 (9/26~28) について



<キャリア形成>

- ・自分のキャリアをどのように積み上げていくか、その 計画の必要性を身にしみて感じるとともに、それが地 域や日本、そして世界にとって有益かどうかという視 点を得られた。
- ・この事業に参加していなかったら出会えないと思うようなすばらしい人材に出会えて、私に大きな影響を与えてくれた。テーマは難しかったが、深く考えることができ、自分のキャリアに対しての考え方が変わった。

<メディアリテラシー>

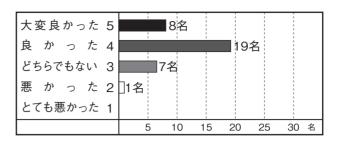
- ・自分にとって新しい視点が多かった。ただ、抽象度 が高かったので、もっと具体的なビジョンを話し合い たいと思った。
- ・ 言語に関係なく専門家からメディアリテラシーを学べたので良かった。

<多文化共生>

- ・"No one left behind"の精神で、最後はコース全体が一つになれた気がして嬉しかった。多文化共生社会についてしっかり考えられた。アクションを学ぶことが多かった。
- ・議論が絵空事に留まった感じがある。それをどう やったらアクションに移せるか、具体的にどうアク ション起こしていくかの次元まで考える時間がな かった。

4. 事前・出発前・帰国後研修について

(1)研修内容をどのように評価しますか。



(2)研修の良かったところ、改善すべきところをそれぞれ お答えください。

<良かったところ>

- ・準備する時間が多くあった。ディスカッション、プロト コールの講習が良かった。
- ・事前研修と帰国後研修において、団での議論する時間が十分に設けられていて良かった。
- ・話し合いに多くの時間をかけることで、参加者の人柄 や思考方法について知ることができ、自分に足りない ものや良いところを吸収できる機会となった。
- ・団員との関係を深める多くの工夫があった。OB・OG の話を聞けたこと。

く改善すべきところ>

- プログラムのタイトさと期間の長さで少々疲れがたまってしまった。
- ・ 団の結束のためのアクティビティとして、スポーツなど で身体を動かしたかった。

5. 事業を終了して

(1) 今後、この事業の経験をどのようにいかしていきたいですか。

<オーストリア>

- ・自分らしく生きる勇気を得ることができたので、まず は自分の人生を豊かに堂々と生きることから始めた い。そして、社会の全ての人が、安心してそういう気持 ちを得らえるよう、音楽や言葉を通して、人とのつなが りの中で生きていきたい。
- ・この事業において自分が最も伸ばすことができたのは「英語で伝える力」だと思う。ディスカッションで自分の意見を伝えるとき、質疑応答の時間に質問を投げかけるとき、自分の一番言いたいことは何か、どうしたら相手に伝わるのか、常に考え続けていた。ま

第3章 資料編

た、オーストリアの青年のボランティア活動に取り 組む姿に感銘を受けた。その感動と伝える力をいかし て、地元で観光ガイドのボランティアをしたいと思う。 その他にも、自分の意見や自分のビジョンを持つこと の大切さ、ビジョンがあるからこそ、リーダーシップを 発揮できることを知った。これから自分が大学や職場 でリーダーシップを発揮していくために、魅力的なビ ジョンを持つ人になりたいと思う。

<ラオス>

- ・この事業で学んだリーダーシップを発揮し、まずは大学のゼミや身近なところにいる人に伝え、関心をもたせ、積極的にまとめられる人材になりたい。また、ラオスの国のすばらしさ、人々のよさを伝えていき、ラオスに興味を持つ日本人を増やしたい。
- ・私が将来どのような職に就いたとしても、日本という 視点からではなく、外の世界があるということと、多く の人がいる=多文化であり、共生する上でそこに正解 はないということを忘れないでいたい。また、チームビ ルディングでの経験は、今後の社会でいかせるワーク がきっとあると思う。

<ラトビア>

- ・自分の将来の幅を広げ、自国や地元のことを振り返り、知識を深め、大分県の活性化に一青年として貢献する。
- ・社会貢献する。日本の社会、世界に対してもっともっ と積極的に関わっていきたいと思った。また、能力的 な未熟さをひしひしと感じたので、その中で能力の向 上も目指していきたい。
- (2) その他、この事業の感想や事業に対する意見・提言があれば記入してください。

<オーストリア>

- ・参加することを決めて本当に良かった。この事業を 支えて下さった方々から「青年が応援されている」と いうことを感じさせていただくことができ、社会の中 で堂々と胸を張ってがんばる勇気をもらった。
- ・18~30歳の青年12人と、団長、副団長が団の中での 役割を適切に果たすことができたのは、それぞれの 能力のなせる技でもあったと思うが、何より自分たち で自由にできる場を提供してくださった、関係者の皆 様の支えがあったからだと思う。

<ラオス>

- ・想像以上に得るものが多く、この事業に参加できた ことを心から光栄に思っている。現地では普段会え ないような人と出会い、交流でき、とても有意義な時 間だった。私を大きく変えてくれた。
- ・この事業を通じて、多くの人に出会えたこと、新しい視点を与えてくれたことに心から感謝したい。プログラムに関わってくださった全ての方に対し、その気持ちを忘れず、将来に渡って、国際社会に日本青年として貢献できる人材になりたい。

<ラトビア>

- ・全事業を通してすばらしい経験ができたことに感謝している。今回学んだことをしっかり反芻して、自分の成長に役立てたいと思う。歴史がある事業だけに、毎年のフィードバックがきちんとできているのかと思うことがあったのは残念だ。
- ・多くの方の御尽力により、代えがたい経験をさせていただいた。ここで得た経験を広げていくことで恩返しができたらと思う。応募前にこの事業の全体像がイメージしにくかったので、もう少し情報を開示すると、より多様な人が集まると思う。

研修日程 平成30年度 国際青年育成交流事業(日本青年海外派遣)

4		振り返り		柴	び返り	振り返	2	振り返り		
青少年総	20:00 21:00	回到母参			08・0G 懇談	回別研修	団長・副団長会議	留学生とのディスカッション (他国との友好関係構築の ために今青年ができること)		20:00 21:00
پّ چ		御殿に						1年と 国に 今に かいこう		
易:国立オリン	19:00	訪問国活動に関する説明			団別研修	夕食交流会			_	19:00
修会		御				1,6		₹		
中	18:00	チェックイン・夕食			夕食				-	18:00
	0	トック ・イット				15:00~16:00 ~17:00		Ma		0
	17:00	#			NA.	:00 		国別研修		17:00
					団別研修		₹n	団		
	16:00	回別研修			団	の懇言 16	115114 1			16:00
		回回				高量と 自訪問	<u> </u>		密糖	
				回数光期	手ど徳会議ご	オーストリア:大使館員との懇談 15:00~ ラオス:大使館訪問 16:00~17:00	ν 7 η	渡航に関する説明	事後活動について	0
	15:00			開	する説明年交流会議に	:: 7.7 :: X1		決争の間でで記り	神後に重けている	15:00
		가는		1	····	-7. -7.				
	14:00	オリエン イエン・デ ン=ツー・デ		3	外務省職員による 訪問国に関する 講義	+		ディスカッション テーマに関する 関する講座 (演習) ・キャリア形成 メディアリテラシ・・多文化共生	₹ 0	14:00
	-			[1	が 国内	N+-	<u>م</u>	ディスカッション デーマに関する 関する講座 (演習) ・キャリア形成 メディアリテラン・ ・多文化共生	回別班會	<u> </u>
		医糖光		1	外務? 討問 記問	朝難 ロイローナム	_ ≠	デー ・ が・	<u>H</u>	
	13:00	参加青年受付						•		13:00
		型 参加青年受力 関 関	固)		固	同		回倒	回倒	
	5:00									5:00
	12:					研修		1 1 2 2 3 3 3 3 3 3 3 3		12:
		世 ^神				団別研修		イスカッション ーマに関する 関する講座 (基礎知識) ・キャリア形成 バディアリテラン・多文化共生・多文化共生・		
	11:00	団長·副団長 分職		₩1	移動	₩ ₩		ディスカッション デーマに関する 関する講座 (基礎知識) ・キャリア形成 メディアリテラシ・・多文化共生	回過時	11:00
		豆		可別研修		日本青年代表としての小権之に	非 多講	•		
	10:00			Ð	大使館訪問 (ラトビア団)	用がから	黙	る 労		10:00
					大 (ラト	中		英語による ディスカッション 講座		_
	_				移動	回別研修			ト ー ミー ティング	
	00:6			Ī	唱团岷	> III - I-	ナンか	≻ – ミー ティング		9:00
			-	<i>III</i> —	ティング		. ///	11. , //(チェックアウト	
	盟	3			(光)	€		⊕	Ĥ	
麵	ш	7月3日			7月4日	7月5日		7月6日	月7日	
事前研修	町	7月			7月	7月		別	7月	
冊	回	無一口回		扭	田田~光	箫《日	Ш	無4田田	第で日田	

Ë	五光則如形														l			日が、「く」、く」、いい、別な日は
回	ВВ	盟		9:00	10:00	-1:00 	12:	 0	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00		18:00	19:00	20:00	21:00
無一	[は、オリエン・	П	1、) 上海 过回 图:	及び事経済に関	₩H>	夕食		回別研修	
- Ш Ш	月0日6	€								(本		引に国国に対している。	連絡 〒10名記明	ケトソ	国。	団長·副団長 公議		
無。	0	3	> -			(スカッシュ)	アーナン		-	_	-	団別研修			4	4		-
√ Ш Ш	9.B/E	(単)	ノナン 女	过别钟惨		に関する講座		昼度戳送会	514 1	(条) 三一字	係別 ミーティング				۸	2 艮		
策の日目	9月8日	(∓)	〈ラトビア派遣団〉 7:3 〈ラオス派遣団〉 9:45: 〈オーストリア派遣団〉		・ル発 /発 ホテルジ		7:45成田空港着 10:00成田空港着 → 10:00成田空	↑↑糧	50成田季 00成田 13:35	9:50成田発(AY072) 12:00成田発(TG643) → 13:35成田発(OS052)								
			.6	9:00 I	10:00	11:00	12	12:00 1 :	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00		18:00	19:00	20:00	21:00
[帰]	帰国後研修											研修会場:木子	・ルマイスき	アイズプレミ	7成田及び	国ケイレンド	研修会場:ホテルマイステイズブレミア成田及び国立オリンピック記念青少年総合センタ	治センター
			16	9:00	10:00	11:00	12:00		13:00	14:00	15:00		17:00	18:00		19:00	20:00	21:00
無一田田	9月25日	₹	〈ラオス派遣団〉 8:10 〈ラトビア派遣団〉 8: 〈オーストリア派遣団〉	1 00 11/1	8:10成田空港着 (TG642) 8:55成田空港着 (AY073) 団〉 11:55成田空港着 (OS051)	TG642) F(AY073) E港着(OS	051)								夕食交流会		プログラム オリエンテーション	
無~口回	9月26日	()K)			テーマオリエンテーション	i ゾョン		昼食交流会		is 基調講演•	SDGs ₹.	SDG s 基調講演・SDG s テーマ別ディスカッション	```				文化交流会	
無の田田	9月27日	€	移動 成田→東京	動 東京	職	課題別視察		青年昼食会		SDG s テーマ別 ディスカッション	マラン スピン	レセプション	一 本	移動 東京→成田		夕食交流会	বাদ	
無 4 田田	9月28日	(委)		SDG s 7	 SDG s テーマ別ディスカッション	スカッショ	۸	青年昼食会	તાત	成果発表会	参レ式	8動 成田→NYG	0	チェックイン	- 校		回別研修	
紙で田	9月29日	Ĥ	>		回別研修			闽			-	田別研修	_		夕食	<u> </u>	評価会プンケート記入	
Ш			ゲング		各係ニーティング	,			海外旅行保険の 申請	保険の		四 中 会 会 会 会 会				(2) (3 (3) (4)	②自己評価シートまとめ ③振り返り	0
無6田田	9月30日	(B)	チェックアウト	全体会について		成果発表	修了証授与式修了証券(団長から)											
			6	9:00	10:00	00:11	12:00		13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	00	19:00	20:00	21:00

第3章 資料編

内閣府青年国際交流事業報告書2018

第25回 国際青年育成交流事業 (日本青年海外派遣)

発 行:内閣府

〒100-8914

東京都千代田区永田町 1-6-1

TEL: 03-6257-1435 FAX: 03-3581-1609

URL: https://www.cao.go.jp/koryu/

編 集:一般財団法人青少年国際交流推進センター

〒103−0013

東京都中央区日本橋人形町 2-35-14 東京海苔会館 6階

TEL: 03-3249-0767 FAX: 03-3639-2436

URL: http://www.centerye.org/

印 刷:中和印刷株式会社